

大東亞戰爭必勝完遂



昭和十七年
七月

夏の子

暑いからとてぐんにやりするのは、おとなのことでです。それも、おとなのからだは弱つてゐるといふよりも、暑い／＼と、暑いことを氣にするからです。暑さに氣まけするからです。

かん／＼と照りつける日光の下に、ぐん／＼と生育してゆく、あの強い草の緑を見ませう。まぶしげさへなく、パツと大きく咲き開いてゐる濃黄や深紅の花を見ませう。否々、そんな詩のやうなことをいふまでもなく、この子ども達を見ませう。すつくと立つてゐる草の葉よりも、大輪に開いてゐる草の花よりも、びし／＼と張り切つてゐるのは夏の子です。

私の心の目の前に、あの南方の子ども等の暑熱に勝つ姿が浮んで來ました。そしてあれは外國ではなくて、日本なのです。日本の夏は今までの夏ではなくりました。あの子ども等が平氣に遊んでゐる、あれが日本の夏であつてみれば、こゝのは、ほんの涼しい夏かも知れません。

こんなことを考へるまでもありません。子どもは、その與へられた夏に育てられて、勢のいゝ夏の子になるのです。夏に負ける子にしますまい。そんな弱い子にしますまい。

幼稚園から

○何分にもお暑さ。お子さんにお障りないやうに。お障りといへば、おなかなを害されることが一番多いやうですが、その原因は、いろ／＼ありませうが、この節お菓子のたべ過ぎもないこととして、寝びえが一番多いやうですな。

○ところで、夏の注意として、寝びえをしないやうにと、お子さんに申渡す人がありますが、これはどうも無理な話です。熱睡の子に、そんなことを氣をつけてもあられませんし、寝びえするといけないから腹巻をさせて下さいなんて、そんなこといふやうでも困ります。そこで、お母さんの方の手ぬかりとしかいへませんですな。

○たゞ物から來ることだつて、お母さんの不注意を原因とするばかりありません。幼児の養生家なんて、却つて困つて仕舞ふじやありませんか。さあ此の一と夏。お母さんの試験ですよ。